

とらいあんぐる



2017 年 3 月

一音会ミュージックスクール発行

「学校に行く」

春です。

進級や進学をひかえ、期待と不安の日々をお過ごしの子供さんも多いことと思います。

約 40 年前の春のことです。

小学校の入学式を目前にして、私は心に強く決めていたことがありました。

「学校には行かない」と。

たくさん理由がありました。

まず、「学校に行くのは面倒くさい」。

毎朝、暑くても寒くても、決まった時間に起きて、どこかに行く、という生活が、私にできるとは思いませんでした。

普通のお子さんは、保育園や幼稚園に毎日行く生活をしているので、あまり違和感なく、小学校生活に入ることができるのでしょうかけれど、私は違いました。

幼稚園は、2年間くらい、サボっていました。毎日、家で絵を描いたり、絵本を読んだりして、過ごしていたのです。

また、「幼稚園も行かずにすんだので、小学校も行かずに乗り切れるだろう」という考えもありました。

当然のことながら、「義務教育」などというものは、知りません。

小学校入学の準備がはじまるずっと前から、私は決意をかためていました。

「学校には行かない」と。
私の決意がゆらぐことはありません
でした。

でも、祖母のことだけは、気がかり
でした。

祖母は、身体の不自由な母にかわり、
ランドセルをはじめ、学用品をいろ
ろと買い整えてくれていました。

すでに高齢の祖母が、私の入学準備
のために、あちこちに買い物に行く姿
は、見ていると申し訳なくなりました。

今のように、自宅にいて買い物ので
きる時代でもなければ、大型スーパー
でたいがいものがそろう時代でもあ
りません。

祖母は、ある日はデパート、ある日
は生地屋さん、ある日は文房具屋さん



と、毎日のように、買い物に行って
くられていました。

買い物から帰ると、痛む足をさすり
ながら、「アツちゃん、いらっしやい」
と、私を手招きします。

そして、ニコニコしながら、その日
に買った品々を、私に見せてくれます。

祖母は、1つ1つの品物を見せなが
ら、小学校でそれをどんなふうに使
うか、それがどんなに楽しいことか、話
してくれるのです。

「おばあちゃんは、私が小学校に行
くのを、すごく楽しみにしているんだ」
と思いました。

私は、申し訳なさで、祖母の顔をま
ともに見ることができませんでした。

また祖母は、分厚い老眼鏡をかけ、
1つ1つの物に、ていねいに私の名前
を書いてくれました。

私は、ひらがなひとつ書けない子ど
もでした。そばでぼんやり見ているこ
としかできません。

この祖母の膨大な労力を無駄にする
かと思うと、胸がしめつけられる思い
でした。

その品々を使う日は、永遠にこない
というのに！

それでも、私の決意はゆらぎません。なぜなら、私には“使命”があったからです。これこそが、私が学校に行かないと決意した最大の理由でした。

「ママが死なないように、みはって
いなくてはいけない」

大げさではなく、母は死んでも不思議ではない状態でした。

今、母の40年以上におよぶ闘病生活を振り返ってみましても、母がもっとも重篤で、もっとも苦しかったのは、この時代だったと感じます。

病の炎は、燃えさかっていました。

当時、祖母は、母の命が私の小学校入学までもつことを、真剣に願っていました。

すでに「とらいあんぐる」に書いたことがありましたが、私が幼稚園に行かなくなったのも、母をみはっていなくてはならない、という思いからでした。

当時、私の家には、大病を抱える祖父もいて、祖母は母につききり、というわけにもいきませんでした。

私は、1日中、母のベッドの足元において、母の求めに応じて、お水をくんだり、タオルをとってあげたり、

祖母を呼びにいたりという、重大な“任務”をおっていました。

母のことは、私が2年間、ずっと見ていたのです。その生活をやめるわけにはいきませんでした。

「私には、学校に行くより大事なことがある」

たとえ祖母をがっかりさせることになったとしても、こればかりは曲げられませんでした。

ただ、決意を祖母にうちあけるタイミングは、難しいものでした。

今日こそいおう、と思っていたも、祖母の顔を見ると、いえなくなりました。

そのうち、私は作戦をかえることにします。

「母が、私の味方をしてくれるかもしれない」

そう考えて、私は夕食の食卓で、宣言することにするのです。

「学校には行かない」と。

実はその時の様子を、母が「とらいあんぐる」で書いています。今から、20年前、1997年5月号です。

簡単に紹介しますと、こんなふうです。

何を思ったのか、アヤコが「アッチャン、よーく考えたんだけど、学校には行かないことにする」といい出した。

私は持っていたお茶碗を、あやうく落とすところだった。座っていたイスから転げ落ちるかと思った。びっくりして「どうして?!」とアヤコにきいても、「もう決めたの!」と、にっこりするだけ。

あわてている私に対し、両親はちっとも驚いたそぶりを見せず、「そうなの?」といい、平然とごはんを食べている。

描写としては、だいたいあっています。

私は、入学を楽しみにしてくれていた祖母や祖父が驚き、がっかりすると思っていました。しかし、祖母と祖父は、箸をとめることもせず、ニコニコしながら、食事を続けていました。

反対に、「そうなの? 助かるわ。ありがとう!」といってくれるものとはばかり思っていた母が、見るからに動揺し、「学校には行かなくちゃダメ!」と、いい出しました。

私には、とても意外なことでした。
母の文章は、こんな内容に続きます。

アヤコに理由をきいても、どうしても答えない。「ひ・み・つ」といって、笑っている。

「ああ、当時の私は本当の理由を母に隠しとおすことができたのだ」と、心からほっとしました。「母のために学校に行かないことにした」ということを、母が生涯、知らないままでいてくれたことは、私には大きな安堵でした。

その後のエピソードも、母の「とらいあんぐる」に、詳細に書かれています。

アヤコは、小学校の入学式の朝になっても、「小学校に行かない」とごねる。

私の母が、「じゃあ、入学式には行かなくても良いから、入学式用のお洋服だけ、着てみてちょうだい。おばあちゃん、アッチャンが、着ているところ、見てみたいな」という。

アヤコは、まんざらでもない様子で、洋服を着てみる。

母は、かわいい、かわいいとほめながら、「ねえ、アッチャン、すごくよく似合うから、おむかいのスエキさんのおばあちゃまにも、見せてあげましようよ」と、アヤコの手をひき、玄関を出る。

すると、たまたまスエキさんのおばあちゃんが、道に立っていて、「アッチャン、とうとう小学生なのね！ おめでとう！ これから入学式なんですよ？ いってらっしゃい！」という。

アヤコは「うん！」とあって、そのまま入学式に行った。ああ、よかった！

驚くべきことに、母の結論はこうです。

「子どもは、ちょっとした働きかけで、気持ちが変わるもの」

ここでいうちょっとした働きかけとは、スエキさんのおばあちゃんの言葉です。スエキさんのおばあちゃんにほめられて、私がすっかりその気になって、喜々として入学式に向かったことになっています。

母は、スエキさんのおばあちゃんが、たまたまそこにおいて、たまたま言葉をかけてくれた幸運に感謝していました。

「なーんにも分かっていなかったんだなあ」と、私は笑いがこみあげてくるのです。

このエピソードを今、私の目線で、書き直してみたいと思います。

入学式の朝、母は不安がもう顔にあられていて、おろおろしていました。

対して祖母は、ニコニコしています。

祖母はなんと、「アッチャンが行きたくないのなら、学校は行かなくていいのよ」などといいます。

無理やり連れて行かれるのではないかとおそれていたので、すごくほっとしました。

思えば、私の油断は、ここからはじまりました。

祖母に、服を着るようすすめられ、「着て見せてあげるくらいはしないと悪いな」と思います。すると、祖母は「スエキさんのおばあちゃまにも見せたい！」といい出します。祖母とスエキさんのおばあちゃんは、仲良しです。「そのくらいは、祖母の願いをきいてあげないと悪いな」と思います。

とにかく、祖母が「行かなくて良い」といったことで、私は気が楽になっていて、鷹揚なのです。

すると、家を出たとたん、スエキさんのおばあちゃんが、何もかも分かったような顔で、立っているのです。

いくら真むかいの家だからといって、朝からそんなところに立っているのは不自然すぎます。

「やられた！」

私は舌打ちします。

スエキさんのおばあちゃんが、「入学式、いってらっしゃい！」と、高らかに宣言します。

もう“問答無用”な感じです。

子どもだって、気を使いますし、プライドがあります。ここでスエキさんのおばあちゃんに、「学校に行かない、行きたくない」などとは、いえません。

要するに私は、ひっこみがつかなくなって、学校に行ったのです。

スエキさんのおばあちゃんに対して、「待ちに待った入学式！」という顔を作ったのも、私のサービス精神です。

それにしても祖母です。策士だと思っています。

スエキさんのおばあちゃんが、たまたまそこにいた、たまたま言葉をかけてくれたと、何十年にわたって、ずっと思っていた母は、まだまだです。

何もかも、祖母のシナリオ通りだったように思います。

もしかしたら祖母は、私が「学校に行かない」といった本当の理由にも、気づいていたのかもしれませんが。

入学式の翌日は、上級生も全員が登校する、事実上の新学期初日でした。

スエキさんのおばあちゃんのお孫さんであるミキちゃんが、当然のように、我が家の前に立ちます。

「アッちゃん、いっしょに学校に行こう」

ああ、祖母の手はここまでおよんでいたか……。私は観念します。

よその人に気を使う私は、ごねることができず、「うん！」といて、ランドセルを背負うしかないのです。

なにもかも、周到な祖母のシナリオ通りなのでしょう。

そして私は、いつものセリフをはくのでした。

「おばあちゃんにはかなわない！」

(江口 彩子)



◆「ピアノ・トライ」が終わりました

今年最初の大きなイベントである「ピアノ・トライ」と「ル・コンセール」が、すべて無事、終了しました。

昨年が、冬休みあけてすぐの開催であったために、皆さまに気ぜわしい思いをさせてしまった反省から、今年は少し遅めのスタートとしました。そのことで、開催日程を縮小せざるを得なくなりましたが、ふたを開けてみれば、昨年より多くの方にご参加いただくことができました。ご家族の皆さまのご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

この数年、「ピアノ・トライ」と「ル・コンセール」の開催日程につきましては、細かな試行錯誤をさせていただきましたが、今年の形が、多くの方にとって最適であるように思いました。来年も、この時期に「ピアノ・トライ」と「ル・コンセール」をおこなう予定です。くわしくは、追ってお配りする、年間スケジュール表で、お知らせいたします。

◆「フォルテの会」が終わりました

副科の生徒さんの発表会である「フォルテの会」を、1月29日（日）に、「ひびきホール」で開催しました。歌あり、バイオリンあり、フルートあり、たいへん楽しい会となりました。ご出演くださった生徒さん、ご家族の方をはじめ足をお運びくださった方々、本当にありがとうございました。

メロディをうたわせる、あるいはフレーズをまとめる、等の音楽の表現を学ぶのは、実はピアノよりも、歌や旋律楽器の方が適しています。一音会がピアノ教室でありながら、副科のコースをもうけるゆえんでもあります。

ピアノの表現にもっと色をつけたい、豊かにしたい、といったお考えをお持ちの方は、副科を検討してみてもいいかもしれません。

たとえば、合唱のクラスである「うたくらぶ」は、いつでも無料でご体験いただけます。月に1回、60分レッスンです。別クラスに振替可能ですので、お忙しい方でも、無理なくお続けになれると思います。大人の方の「うたくらぶ」のクラスもごございます。ぜひ、体験にいらしてください。

◆客員教授ダイアン・アンデルセン先生が来日します

もうすぐ客員教授のダイアン・アンデルセン先生が来日されます。プライベートレッスンとコンサートを予定しています。日程は、下記のとおりです。

レッスンは、時間帯によっては、まだお入りいただける可能性があります。お考えの方は、お早めにお申し込みください。レッスン料等は、先号の「とらいあぐる」に載せています。

コンサートは、ご希望の方にご招待券を進呈しています。数にかぎりがありますので、ご希望の方はお早めにお申し込みください。お申し込みは、ショパンはうす受付でおっしゃっていただくか、本部までお電話ください【本部電話：03-5966-7711】。

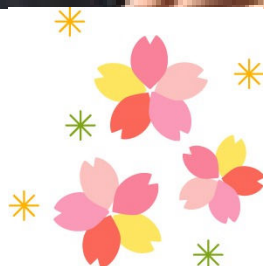
レッスン : 3月17日(金)・18日(土)
コンサート : 3月20日(祝)



ダイアン・アンデルセン先生 ピアノ リサイタル

2017年 3月20日(祝)
14:30開場 15:00開演

ロンド 二長調	W.A.モーツァルト
グラーツの幻想曲 八長調	F.シューベルト
『7つの小品』より	Z.コダーイ
オグエン湖への薄明り	J.ヨンゲン
ノクターン第6番 変二長調	G.フォーレ
スケルツォ・ワルツ	E.シャブリエ
	他



◆新年度時間割をお組みしています

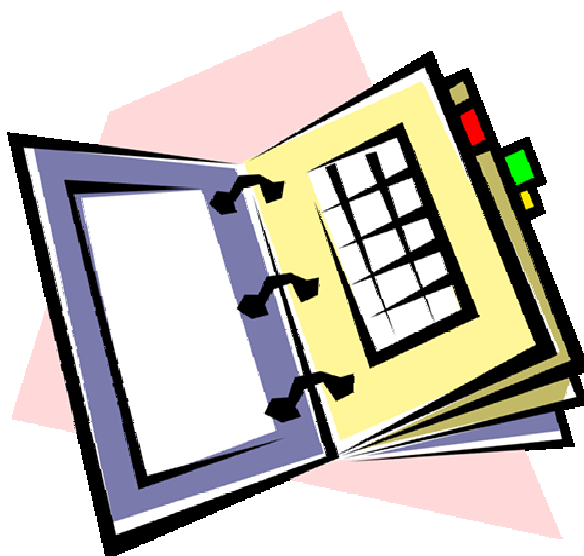
新年度変更希望表のご提出に、ご協力をありがとうございます。現在、みなさまからお出しいただいた変更希望表をもとに、4月からのレッスン時間割を作成しております。

曜日、時間帯、コースについて、変更を希望された方の多くには、時間割に関するご相談のお電話を差し上げているところだと思います。少しでも、お一人お一人の生徒さんのご都合にかなう時間割となるよう、努力を続けております。

しかし、物理的にご希望をかなえることが難しい場合もあり、その点は、どうかご理解ください。たとえば、曜日や時間帯を変更される場合、以前からその日時にレッスンを受けていらっしゃる生徒さんが優先されます。そのため、「そのままの担当で」とご希望をいただいても、同じ担当でお組みできるとはかぎりません。

また、お電話を差し上げた時に、お留守だった場合には、留守番電話やFAXやメールで、ご相談内容をお知らせしていますが、もし可能であれば、本部まで折り返しお電話いただければと思います【03-5966-7711】。といいますのも、同じ時間帯、同じ担当で希望される生徒さんが2人以上いらした場合は、同じ条件であれば先着順となり、先に連絡をくださった生徒さんから決まってしまうと思います。ご面倒かと思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

以前にお出しくださった変更希望表に変更が出た場合にも、なるべく早く、ご連絡ください。



◆新時間割を電話でお知らせします

新時間割は、新年度からの担当が、3月29日(水)または30日(木)に、主に電話で、みなさまにお知らせします。

もし、4月3日になっても連絡がいかない場合は、何かの手ちがいが起こっているかもしれませんので、お手数ですが、生徒さんのほうから、本部までお電話ください。

この期間、ご旅行などでお留守にされる生徒さんは、携帯電話の番号を、事前にお知らせください。こちらからメールやFAXで連絡をさしあげた場合は、ご面倒ですが、受信したことをお知らせいただけますと、たいへん安心します。

ご協力をよろしくお願いします。

◆通信教育もご活用ください

年度の変わり目に、生活が大きく変化する生徒さんも、少なくないと思います。

おひっこしにともない、教室に通えなくなってしまう生徒さんもいらっしゃるでしょう。学年が上がって忙しくなり、今までと同じペースで通うことが難しくなる生徒さんもいらっしゃるでしょう。

教室にお通いくださっている生徒さんには、なかなか通信教育についてご案内する機会がありませんが、一音会では、これまでのおけいこが絶対に無駄にならないように、通信の形でサポートさせていただいています。たとえば、絶対音感のおけいこは、完成を待たずに中断してしまえば、それまでのおけいこが、何の結果も生まないことになってしまいます。

一音会では、以下の4種類の通信教育をご用意しています。

「ミミちゃんクラブ」：ご自宅のピアノを使った、絶対音感のレッスン

「ドクターP」：インターネットを使った、絶対音感のレッスン

「こんこんクラブ」：インターネットを使った、ピアノのレッスン

「あれぐろクラブ」：郵送でやり取りする、ソルフェージュのレッスン

通信には、通信の良さがあります。上2つ、絶対音感のレッスンについては、教室

にお通いになりながら、絶対音感のおけいこだけは通信で、というようにお受けになっ
ていらっしゃる生徒さんもいらっしゃいます。

お忙しくて、毎週通えない生徒さんが、月に1回、教室にレッスンにいらっしゃり、
月に1回、ご自宅でレッスンを受ける、というように、教室と「こんこんクラブ」を、
上手に並行させている方もいらっしゃいます。

どんな場合も、お一人お一人のご事情を考え合わせ、一番、ご負担なく、おけいこ
を続けられる形を、いっしょに考えていきたいと思っております。

ご興味がおありの方は、ぜひ資料をご請求ください。本部でも、ご相談にのらせて
いただきます。

◆一音会卒業生が活躍しています

一音会の卒業生で、作曲家としてご活躍の内山栞さんの作品が、「NHK 全国学校音
楽コンクール」の2017年課題曲に選ばれました。

内山栞さんは、2歳から一音会の通信教育である「ミミちゃんクラブ」で絶対音感
を習得され、4歳から教室にお通いになりました。一音会では、リトミック、ピアノ、
作曲を学ばれました。



東京音楽大学作曲科をご卒業後、作
曲、編曲を手がけるかたわら、ピアニ
ストとしても活動されています。

今回、選ばれた内山さんの作品「願
いごとの持ち腐れ」は、AKBプロデュ
ーサーとして著名な秋元康氏が、数あ
る楽曲の中から選び、作詞したもので
す。

4月と5月、NHKの「みんなのう
た」の中で、AKBの方々による歌バー
ジョンが放映されるそうです。

◆新年度のレッスン開始日

新年度最初のレッスン日は、次のようになります。

お間違えのないよう、ご注意ください。

月曜日・・・・・・・・・・ 4月10日

火曜日・・・・・・・・・・ 4月11日

水曜日・・・・・・・・・・ 4月12日

木曜日・・・・・・・・・・ 4月13日

金曜日・・・・・・・・・・ 4月14日

土曜日（毎週）・・・・・・・・ 4月 8日

土曜日（偶数週）・・・・・・ 4月 8日

土曜日（奇数週）・・・・・・ 4月15日

日曜日（月1回）・・・・・・ 4月16日

日曜日（月2回）・・・・・・ 4月 9日

日曜日（月3回）・・・・・・ 4月 9日



みなさま、良い春休みをお過ごしください。新年度も、引き続き、どうかよろしく
お願いいたします。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。（今年度より、月曜日の夜に行なっております。よろしくお願いたします）

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。